

IPMU発足記念シンポジウム

2008年3月11日と12日の両日、東京大学柏図書館のメディアホールにおいて、IPMU発足記念シンポジウムが開催されました。

シンポジウム前日の3月10日には、ザ・クレストホテル柏においてIPMU発足記念のレセプションも開催されました。レセプションにおいては、次の来賓の方々に祝辞をいただきました：森口泰孝氏（文部科学省科学技術・学術政策局長）、松田岩夫氏（元科学技術・食品安全・IT担当大臣：参議院議員）、Young Kee Kim氏（フェルミ国立加速器研究所副所長）、堂本暁子氏（千葉県知事）本田晃氏（柏市長）、David Gross氏（カリフォルニア大学サンタバーバラ校カヴリ理論物理学研究所所長）、Shing-Tung Yau氏（ハーバード大学教授）。

※このシンポジウムの報告については、本誌39ページをご覧ください。

IPMU高田昌広准教授が 日本天文学会研究奨励賞を受賞

2008年3月26日、日本天文学会は、2008年度の日本天文学会研究奨励賞の受賞者にIPMUの高田昌広特任准教授を選定したと発表しました。同賞は35歳以下の研究者を対象とし、過去5年にわたる天文学への貢献が特に著しかった若手研究者、各年度3人以内に授与されます。2008年度天文学会春季年会において、授賞式が開催されま

した。

今回の賞は、宇宙の暗黒物質の研究に対して与えられました。暗黒物質はその名前のとおり、通常の光では見えない、そのため正体の分からない物質です。高田准教授は、アインシュタインの重力理論から導かれる“重力レンズ効果”を用いて暗黒物質を「見る」方法を開発しました。この方法では、遠方の銀河からの光が地球に届くまでに暗黒物質のそばを通ると、その重力により光が曲がる効果を利用しています。光の曲がりに伴って生じる銀河の形状の歪みを測定することで、暗黒物質の宇宙における分布を調べることが可能になりました。また、高田准教授はこの理論に基づき、すばる望遠鏡やハッブル宇宙望遠鏡での観測チームの中心として、実際に暗黒物質の分布を観測的に導き出すことに成功しました。

高田氏は「今回の受賞により、目に見えない宇宙の神秘は人類の科学力で解明できる可能性があることを確信しました。これからも宇宙の暗黒面の解明に更に迫っていききたいと思います。」と意気込みを語っています。

IPMU大栗博司主任研究員が ドイツ・フンボルト賞を受賞

ドイツのアレキサンダー・フォン・フンボルト財団は、2009年のフンボルト賞の受賞者に、IPMUの大栗博司主任研究員を選定したと発表しました。フンボルト財団は「ドイツのノーベル財団」とも呼ばれ、フンボルト賞は同財団の最も荣誉ある賞です。同賞は自然科学から人文科学、芸術にいたる幅広い研究分野のそれぞれにおいて、基本的な発見もしくは新しい理論によって後世に残る重要な業績を上げ、今後も学問の最先端で活躍すると期待される国際的に著名な研究者に対して与えられます。今回の賞は、場の量子論と超弦理論における数学的手法の開発の業績に対し与えられました。

授賞式は2009年3月に開催されるフンボルト賞受賞者によるシンポジウム

の席上で行われ、ドイツ首相官邸であるベルリンのベルビュー宮殿で首相主催のレセプションが開かれる予定です。大栗主任研究員は、賞金(6万ユーロ)をドイツのマックスプランク重力物理学研究所との共同研究経費に充て、量子力学と重力理論の統合に向けた研究の推進をはかります。

吉田直紀氏と小松英一郎氏が IUPAP若手科学者賞を受賞

国際純粋・応用物理学連合（IUPAP）は、吉田直紀氏をIUPAP計算物理学若手科学者賞受賞者に選定したと発表しました。吉田氏は2008年9月に名古屋大学よりIPMUに特任准教授として着任予定です。同賞は、宇宙の大規模構造の研究、特に大規模計算を用いた理論研究における功績に対し授与されます。授与式は2008年8月にブラジルにおいて開催されるIUPAPシンポジウムで行われます。

また、テキサス大学准教授でIPMUの客員科学研究員を併任する小松英一郎氏も、宇宙背景放射についての研究に対しIUPAP天体物理学若手科学者賞を授与されます。授与式は、2008年12月にカナダで開催される相対論的天体物理学シンポジウムにおいて行われる予定です。

第一回外部評価委員会

IPMU発足記念シンポジウムの翌日、2008年3月13日に、IPMUの外部評価委員会が開かれました。委員会は国際的に著名な8名の研究者で構成され、今回は、7名が参加しました。

IPMUは、“発足より数ヶ月における進展はすばらしいものである”（報告書より）として、高い評価を得ました。委員会からは、今後より一層の発展を図るために有益な様々な提言もなされました。

WPIプログラムの 現地視察とフォローアップ

2008年4月17日、WPIのプログラムディレクター (PD)、黒木登志夫氏、IPMU担当のプログラムオフィサー (PO)、三田一郎氏を初め、文部科学省と日本学術振興会からの視察団によりIPMUの進捗状況について現地視察が行われました。また、5月20日にフォローアップ委員会が開催され、各拠点長からの報告とPD、POによる視察の報告に基づき、プログラム委員会による評価が行われました。IPMUは村山機構長の強いリーダーシップなどについて、高い評価を受けました。フォローアップの結果はhttp://www.jsps.go.jp/j-toplevel/08_followup.htmlに公表されています。

プレハブ研究棟完成

IPMUは昨年10月の発足以来、東京大学柏キャンパスの総合研究棟に研究室と事務室のスペースを借用していました。しかし、今年の5月にセミナー室も備えた2棟 (写真のA、B棟) のプレハブ研究棟、さらに6月にも談話室を備えたもう1棟 (C棟) が完成し、それまで大部屋に机を並べていた研究者に個室を提供することができました。

なお、建築予定の5階建て、約6,000m²の研究棟は、来年秋の完成を目指し、設計が最終段階を迎えています。



研究会報告 ——フォーカスウィーク：ニュートリノ質量

2008年3月17日～20日の期間、IPMUにおいて第2回フォーカスウィークが

開催されました。「フォーカスウィーク：ニュートリノ質量」は、様々な分野の研究者を招いてニュートリノ質量に関する広範囲にわたる話題を議論することを目的とし、世界中から約40名の研究者が参加しました。

招待講演者及び講演内容は、本誌第1号を参照して下さい。また、研究会の具体的なスケジュールや講演内容を収めた電子ファイルが、IPMUのホームページよりダウンロードできます。講演内容は、理論、現象論、実験、天体物理学、宇宙論と非常に多岐に渡りました。研究者間の議論の時間を多く設けるというフォーカスウィークの形式は有効に働き、異なる分野の研究者の間で活発な議論がなされました。

アジア数学者・数理論理学者会議

アジア地域の数学者や数理論理学者の交流促進のため、2008年3月20日～22日の3日間、数学と理論物理学の広い分野を対象とした学際的研究会が開催されました。インドから2名、韓国から4名、中国から1名、日本から4名の研究者による講演が行われました。学術的な講演のほか、村山機構長によるIPMUの紹介、またインドのタタ研究所やハリスチャンドラ研究所、韓国のソウル国立大学や韓国高等研究院、中国の浙江大学の数学科学研究中心などアジアの各研究拠点との連携の具体的な計画策定のためのミーティングも開かれました。この会議での合意に基づき、IPMUはこれら研究拠点との研究者交流を促進する予定です。

今後の研究会 ——フォーカスウィーク： 第二回LHC現象論

2008年6月23日～27日に「フォーカスウィーク：第二回LHC現象論」が開催されます。本研究会は、LHCにおける新しい物理に焦点を当て、特に研究者間の議論に重点を置いた研究会となります。第一回の成功を踏まえ、第

二回LHC現象論においても「フォーカスウィーク」形式で開催されることが決定されました。一日あたり2ないし3講演に留め、残りを議論の時間として、研究者間の相互理解と新たな共同研究を促進することを狙いとしています。ただし、研究会期間中の一日だけはワークショップとして参加者の講演中心の構成になっています。

以下の招待講演者が予定されています。Richard Cavanaugh氏 (CMS, Florida), Hsin-Chia Cheng氏 (UC Davis), Rikkert Frederix氏 (Louvain), Yeong Gyun Kim氏 (KAIST), Ryuichiro Kitano氏 (LANL), Tommaso Lari氏 (ATLAS, INFN), Christopher Lester氏 (ATLAS, Cambridge), Takemichi Okui氏 (Maryland), Jay G. Wacker氏 (SLAC).

※IPMUのホームページにおいて、より詳細な情報が公開されています。

セミナー

世界中から研究者を招いて、毎週水曜日の午後3時半より柏キャンパス内のIPMUにおいて定期的にセミナーを行っています。このIPMU定期セミナーは、レビュー講演を中心とし、異なる分野の研究者同士の相互理解の促進を目的のひとつとしています。また、柏キャンパスにおいて、分野ごとのセミナーも開催しています。現在、素粒子物理・天体物理セミナー (木曜午後1時半)、数学・数理論理セミナー (木曜午後3時半) が開催されています。セミナー講演は英語で行われます。また、駒場キャンパスにおいても数学分野のセミナーを開催しているほか、柏キャンパスにおける臨時のセミナーも精力的に開催しています。

2008年2月21日以降、6月13日までにIPMUセミナー、IPMU駒場セミナーを併せて34講演が行われました。講演の一覧については、本誌24、25ページを参照して下さい。

※IPMUのホームページ上でもセミナー情報が確認できます。